

# 公民館等職員専門研修

～ 人づくり・つながりづくり・地域づくりの核となる 公民館等施設をめざして ～

R5・10・4 (水) : あすてらす

【実践発表】「これからの公民館等職員に求められる力とは？」

出雲市荒木コミュニティセンター長 原 敦代 氏

## 1 コミュニティセンターとはなにか 教育委員会部局と首長部局 3つの役割

- ①公民館としての役割…最も大切に思っている部分。すべての行政が、「地域づくり」のために「住民の自治能力の向上」を望んでいる。私たち住民は、自ら学び、本当に必要なことは何なのか、人間としての幸福な暮らしは何なのか考えていかなくてはならない。そのための学びの場。
- ②市民活動の拠点としての役割…地域を支える多くの自主的自発的な活動を、応援する役割。
- ③行政と住民をつなぐ連絡・調整の役割…行政からの一方的なお知らせではなく、住民からの声を行政に伝える役割。



## 2 学びの方法について

- ①荒木コミュニティセンターの講座制  
毎年4月に募集。毎月1回程度開催。参加者みんなて、学ぶ内容を決めるセルフサービス講座。開講式・文化祭・総合学習発表会は全員参加。(開講式では、学びの仲間を意識し、学ぶ目的を明確にし文化祭で結びつきを強め、発表会では学びの成果を披露する)
- ②-1 基礎課題表と課題表にもとづいた講座
- ②-2 基礎課題表と課題表にもとづく予想される学習講座  
(毎年センターとして何が出来るか、人生のどの段階でどんな学びが必要か考えている)

センターは目標だけ提示します (発表概要)



## 3 令和時代の公民館等職員に求められる力とは

- ・人と人をつなぎ、住民の自治能力を高めるお手伝いをする力
- ・新しいものを受け入れる力 (アンテナを張る・柔軟性→ライン・オープンチャット)
- ・若しや民間を活用する柔軟性 (企業・NPOなどとタイアップ→その道の専門家に依頼)
- ・加減法で毎日楽しく働く力

私たちは、住民のニーズをつかんではいない。センターに来たくない人はこない。学校とは違う。講演会で人を集めるのが目的ではない。住民が必要としているのは何かを知り、知りたい気持ちを後押しする。

用事があってもなくてもいつでも気軽にお出かけください。きっと楽しい時間を過ごせます！  
荒木コミュニティセンターは  
あなたの公園・あなたの図書館・あなたの居場所です！

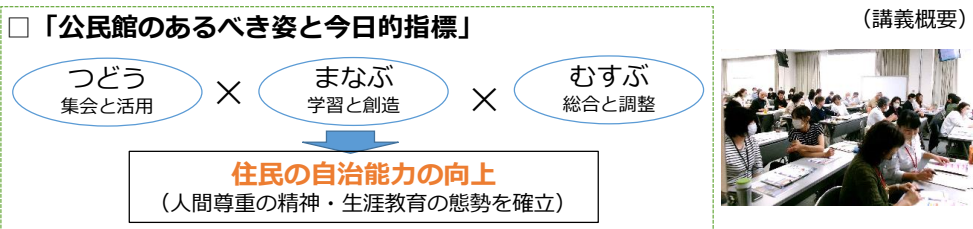
【講義】～人づくり・つながりづくり・地域づくりの核となる公民館活動のありかた～ “動いて” “変えていく” 公民館等の活動を展開していくために

那覇市若狭公民館長 (NPO法人地域サポートわかさ) 宮城 潤 氏

□若狭公民館エリア概況と課題  
古い文化と新しいコミュニティ両方の側面がある地域。自治会加入率13.1%生活保護率も高い。外国人労働者や留学生在が急増している。貧困や孤立、差別、地域の担い手不足など課題がある。

課題が複雑化・深刻化する地域社会の、課題解決に特効薬はない！

- ・地域住民が自治的 (主体的・継続的) に取り組むことが重要
- ・一人ひとりの“やりたい！”に寄り添い、後押しする



□若狭公民館の取組紹介  
青年のための講座・交流事業  
公民館利用者の高齢化、青少年層の利用減少、若者との関りがほとんどない  
(若者の声) 利用しづらい、興味が持てない、公民館の存在を意識したことがない

従来のイメージと違うことをすることで  
内に発信→外に発信→来た人に個別に声かけ→1人2人来るように→来た若者にヒアリング

ex) 朝食会  
・参加してもしなくてもいい  
・場を担保するだけ  
・モットーは「がんばらない」

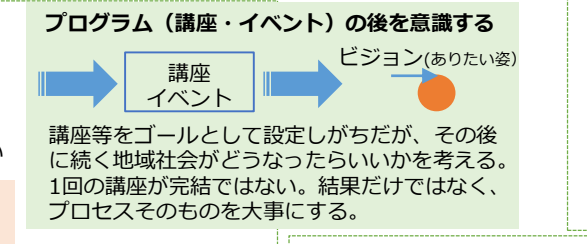
ex) パーラー公民館  
多様な人が出会う場や特技を生かせる場がない地域に、黒板をテーブルに、パラソルを立てただけで公民館だと言い張る。月1回のワークショップ開催

ex) 多文化共生の取り組み  
外国人の増加で、いろいろな憶測がうまれるのでは…交流の場を

話し合っていてやりにくいが出てくる  
協力から主体的に  
助成金交付が終わっても自分たちで運営  
なくしてはいけない…マインドが生まれる  
支援したい人たちが繋がっていく

固いイメージの公民館が、アレンジで面白いワクワクする空間に

- ・Wiiで遊ぶ
- ・公民館合宿
- ・朝食会
- ・100人でだるまさんがころんだ
- ・100人で朝食会
- ・パーラー公民館
- ・多文化共生の取り組み
- ・Happy Nepali めんそーれ沖縄



□「広報」と同じく重要なのが「広聴」

「広報」…情報発信  
発信するだけでなく「信頼関係」を築く

「広聴」…情報収集  
情報発信することで、活動内容が周知され様々な意見や「やりたい！」の相談がくる循環が生まれる

ホームページ・ブログ・Facebook・ツイッター・公式ライン・YouTubeチャンネル・メルマガ・オンライン講座・広報誌

□コミュニティをひろく・つなげる  
コミュニティ…利害をともしする共同体 価値観が近く均質性の高い  
○安心できる場所 ○一元的・排他的アイデンティティ つながり→しがらみ  
地域の中にある多様な小さなコミュニティを顕在化し、それぞれの活動を広げること、地域全体がゆるやかにつながる (多層なつながりがしがらみを薄くしていく)

自治会加入率15%  
地縁コミュニティ  
孤立しがちな人 地域

自治会加入率15%  
地縁コミュニティ  
孤立しがちな人 地域

小さなコミュニティ  
ダンボール部・ポストポスト部・ユーチューブ・留学生対象文化交流会で空手レクチャー・高校生による子どもの居場所  
生涯学習とは、学びを通して価値観を更新し、新たな自分に出会う営み  
公民館は実際生活に即した取組を行う中での学び「学びと活動の循環」の場を作っていく。

【演習】「人づくり・つながりづくり・地域づくりの核となる公民館等施設の活動を進めていくために」 (ワールドカフェ)

1 ラウンド目  
講義と実践紹介から「地域住民を公民館等施設活動に巻き込むために大切だと思うこと」を自由に話し合い模造紙に書き込む

2 ラウンド目  
ホスト役を残し、他のメンバーは別のテーブルに移動し新しいメンバーで同じテーマを話し合い模造紙に書き込む

3 ラウンド目  
元のテーブルに戻り、収集した情報を出し、さらに話を深める

【講評】

○価値観のアップデート  
○「頑張らない」は、何もしいことではない！  
頑張るって突破するのではなく、タイミングをみていると、協力する人が現れて次の展開に進める。枠組みをしっかりと作るのではなく、中身が魅力的かに、ワクワクすることに力を。ゆるやかな気持ちでいられる。頑張らないけどあきらめない。

○「斜に構える、構えない」両方を同時に持つ  
・受け入れる素直な心→(草の根・価値観が異なる・弱い立場…に)  
・批判的思考→(権威的・価値観が近い・同じ立場・常識に)

○グレーゾーンの取り扱い  
実社会は常に曖昧 (白黒ははっきりしていない)  
解釈の幅は広い、立場によって見え方も異なる。  
お互いに折り合い方を学んでいく、ルール自体を更新していく。

○リスク回避を言い訳にして思考停止に陥っていないか？  
問題を先送りしていないか。前例踏襲では、白黒つけることが時代に合わなくなる。

○自分自身が楽しむ ex) 「トム・ソーヤのペンキ塗り作戦」  
あえて楽しそうなことを発信。同じ作業でも気持ちが変わってくる。



【ふり返り】 新しい気づき・印象に残っていること、やってみたいこと

- ・楽しそうにやってみせる ・任せる ・はじめは1人でもやがて大きな輪に ・人とのつながり
- ・マインドセット ・盾となる応援団であり 指導者たれ ・頑張らない
- ・地域を歩く お客さん扱いをやめてみる ・楽しそうな生きやすい場所づくり



【アンケートから】一部抜粋

- ・宮城館長さんのお話の中で、人を惹きつける発想や仕掛け等沢山学ぶことができた。
- ・荒木コミセンの原さんのお話は、とてもわかりやすく楽しく聞かせてもらった。
- ・荒木コミセンの発表は、地域住民を巻き込む理想のかたちだと思った。同じことはできなくても、何かしら参考に今後の活動に役立てたい。
- ・プレーヤーになりすぎず、任せる姿勢を大切にしたい。
- ・話すこと、共感すること私たち職員にも大切だと感じた。
- ・とても参考になる話が聞けた。グループワークでは実践していくために、いかにハードルを下げるかなどを話せたので、何とか踏み切れそうな気がする。
- ・「がんばらない」で楽しみながら作り出すこと、持ち帰って実現できるよう頑張りたい。
- ・研修に参加して、動いて変えていくためには、自分の地域には何が必要なのか、どう取り組んでいくのか気づきをもらった。
- ・講義・発表は、どう工夫したら良いのか、意義などわかりやすく説明していただけたので、頑張るって実践したい。
- ・公民館の規模や立場は違っても、地域と向き合う熱はみなさん同じように素晴らしいと思った。
- ・自分自身が変化を恐れない。いろいろな方に出会って価値観を更新していきたい。
- ・実践発表と講義内容がとても参考になった。演習ではよい情報交換となりグループの方と「新たな交流事業をしましょう」というつながりができた。